

2. 日本語教育部門

日本語研修コース報告（2007年4月～2008年3月）

後藤寛樹

はじめに

大学院入学前予備教育日本語研修コースは、主として、文部科学省によって配置される大使館推薦の国費研究留学生および教員研修留学生を対象とした日本語集中コースで、毎年4月と10月に開講し、各期15週間75日のコースを提供している。富山大学留学生センターでは、1999年10月に第1期を開講し、2008年3月には第17期生を送り出した。富山大学に配置されてくる国費研究留学生の数は少なく、コースの受講定員に余裕があるため、2000年10月開講の第3期日本語研修コースからは、学内の大学推薦国費研究留学生や私費研究生等にも門戸を開き、受講者として受け入れている。本稿では、2007年4月から開講された第16期と同年10月から開講された第17期について報告する。

1 受講者

第16期は、文部科学省から大使館推薦の国費研究留学生1人の配置があった。これに加えて、学内措置の公募による学生3人が参加し、合計4人の学生が受講した。第17期は、文部科学省からの配置学生はおらず、学内措置によって受講者の募集を行い、大学推薦による国費留学生や私費留学生など、合計6人が受講した。10月開講の期は、日韓共同理工系学部留学生プログラムによる学生の配置があった場合、日本語研修コースの一部の授業を受講することになっているが、今期は配置がなく、日本語研修コース受講者のみの開講となった。

各期の受講者は表1の通りである。

表1 日本語研修コース受講者（第16期・第17期）

期	名 前	国 籍	指 導 教 員
16	アントニオ シルス ヴィラス・ボアス	ブラジル	富山大学 西条 寿夫 教授
	王 清 寧 (オウ セイネイ)	中 国	富山大学 水谷内徹也 教授
	王 曦 (オウ ギ)	中 国	富山大学 清家 彰敏 教授
	グエン トゥイ オアン	ベトナム	富山大学 西条 寿夫 教授
17	オラウィン パランセーントーン	タ イ	富山大学 濟木 育夫 教授
	王 照 奎 (オウ ショウケイ)	中 国	富山大学 岡田 裕之 教授
	エミリア ビ シュ アワンベン	カメルーン	富山大学 竹内 章 教授
	隋 丹 妮 (ズイ タンニ)	中 国	富山大学 平井 美朗 教授
	浮 新 普 (フ シンフ)	中 国	富山大学 岡田 裕之 教授
	ジェイソン ハドリン	アメリカ	富山大学 松田 健二 准教授

2 コース担当者

第16, 17期ともに、センター専任教員5人（加藤扶久美, 出原節子, 深澤のぞみ, 濱田美和, 後藤寛樹）と、非常勤講師6人（岩本阿由美, 中河和子, 藤田佐和子, 松岡裕見子, 要門美規, 横堀慶子）が授業を担当した。後藤寛樹がコーディネートを担当した。

3 コーススケジュール

第16期は、2007年4月11日（水）に開講式、同年9月14日（金）に修了式を、第17期は、2007年10月11日（木）に開講式、2008年3月3日（月）に修了式を行い、どちらの期も15週間75日の集中授業を行った。なお、第16期は、当初予定では7月31日（火）で授業を終え、夏季休業に入る予定であったが、7月2日（月）から4日（水）まで麻疹による全学休講措置がとられたため、その間の授業を8月1日（水）から3日（金）に振り替えて行うこととなった。

各期の主なスケジュールは以下の通りである。

<第16期>

2007年	4月6日（金）	学内公募選考
	4月9日（月）・10日（火）	オリエンテーション（コースオリエンテーション、外国人登録、銀行口座開設、キャンパスツアー）
	4月11日（水）	開講式
	4月12日（木）	授業開始
	5月23日（水）	異文化交流パーティー
	6月1日（金）	フィールドトリップ（富山市民俗民芸村・五百羅漢）
	7月28日（土）・29日（日）	ホームステイ、ホームビジット
	8月6日（月）～9月5日（水）	夏季休業
	9月7日（金）	口頭発表プロジェクト スピーチ発表会
	9月14日（金）	修了式

<第17期>

2007年	10月9日（火）	学内公募選考
	10月11日（木）	開講式、コースオリエンテーション
	10月12日（金）	授業開始
	11月28日（水）	異文化交流パーティー
	11月30日（金）	フィールドトリップ（富山市民俗民芸村・五百羅漢）
	12月25日（火）～2008年1月4日（金）	冬季休業
2008年	1月26日（土）	ホームビジット
	2月19日（火）	口頭発表プロジェクト スピーチ発表会
	3月3日（月）	修了式

4 コース内容

授業は原則として月曜日から金曜日まで1日4コマで、日本語と日事情、コンピュータを中心とした内容で行った(4.1節 表2, 3に時間割を掲載)。このうち、初級クラスの午前の授業10コマ中6コマ、中級クラスの午前中の授業10コマ中4コマについては、日本語課外補講の授業と合同で開講される授業である。通常の授業の他に、学生の個人の習熟度別の指導やニーズに応えるために、特別指導も行った。コース後半からは、専門課程への橋渡しの教育として、自分の専門についての口頭発表とレポート作成を行う「私の専門」プロジェクトも課した。

第16期は、受講者を日本語能力に応じて2つのクラスに分け、初級・中級の2クラスを開講した。第17期は、中級レベルに該当する受講者がいなかったため、受講者を既習歴の有無によって2つのグループに分けて授業を行った。また文字・漢字のクラスについては漢字の学習歴がある受講者と漢字圏の受講者を1つのグループ、非漢字圏の受講者を1つのグループとして授業を行った。

4.1 時間割

表2 第16期日本語研修コース時間割

	1 (8:45～10:15)		2 (10:30～12:00)		3 (13:00～14:30)		4 (14:45～16:15)	
	初級	中級	初級	中級	初級	中級	初級	中級
月	文法 (岩本)	文法 (松岡)	文法 (岩本)	文法 (松岡)	読解 (加藤)	コンピュータ (濱田)	コンピュータ (濱田)	読解 (加藤)
火	文法 (加藤)	文法 (深澤)	文法 (加藤)	文法 (深澤)	聴解 (後藤)	作文 (藤田)	会話 (濱田)	会話 (後藤)
水	試験・復習 (後藤)	文法 (中河)	試験・復習 (後藤)	文法 (中河)	文字・漢字 (濱田)	文字・漢字 (深澤)	日事情 (出原)	
木	文法 (要門)	文法 (岩本)	文法 (要門)	文法 (岩本)	作文 (横堀)	コンピュータ (深澤)	コンピュータ (後藤)	聴解 (深澤)
金	文法 (横堀)	文法 (要門)	文法 (横堀)	文法 (要門)	特別指導			

網かけのクラスは日本語課外補講との合同クラス

表3 第17期日本語研修コース時間割

	1 (8:45～10:15)		2 (10:30～12:00)		3 (13:00～14:30)		4 (14:45～16:15)	
	初級1	初級2	初級1	初級2	初級1	初級2	初級1	初級2
月	文法 (岩本)	文法 (後藤)	文法 (岩本)	文法 (後藤)	読解 (加藤)	コンピュータ (濱田)	コンピュータ (濱田)	読解 (加藤)
火	文法 (加藤)	文法 (深澤)	文法 (加藤)	文法 (深澤)	聴解 (後藤)	作文 (藤田)	会話 (加藤)	会話 (後藤)
水	試験・復習 (中河)		試験・復習 (中河)		文字・漢字 (加藤)	文字・漢字 (深澤)	日事情 (出原)	
木	文法 (要門)		文法 (要門)		作文 (横堀)	コンピュータ (深澤)	コンピュータ (後藤)	聴解 (深澤)
金	文法 (横堀)	文法 (要門)	文法 (横堀)	文法 (要門)	特別指導			

網かけのクラスは日本語課外補講との合同クラス

4.2 日本語科目

初級クラスの目的は、基本的な日本語文法を習得し、運用できるようになること、文字についてもひらがなやカタカナ、基本的な漢字を習得することである。中級クラスについては、学生の日本語力に合わせて、初級後半の文法の復習から開始した。さらに中級レベルの文法や語彙を習得し、運用力をつけることを目指して授業を行った。

また、正しい日本語の発音を身に付けるための指導も、独自開発教材を用いて行った。

各クラスで使用した教科書等は以下の通りである。

初級クラス

主教材 『みんなの日本語』初級Ⅰ、Ⅱ（スリーエーネットワーク）

『かなマスター』（専門教育出版）、『Basic Kanji Book』Vol.1, 2（凡人社）

『毎日の発音練習』（独自開発テキスト）

副教材 『みんなの日本語 初級で読めるトピック 25』『みんなの日本語 書いて覚える文型練習帳』

『みんなの日本語初級 やさしい作文』（スリーエーネットワーク）、『わくわく文法リスニング99』（凡人社）、『クラス活動集101』『クラス活動集131』（スリーエーネットワーク）、『絵とタスクで学ぶにほんご』（凡人社）、『にほんごきいてはなして』（ジャパントイムズ）、『楽しく聞こう』『楽しく話そう』（凡人社）など

中級クラス

主教材 『みんなの日本語』初級Ⅱ（スリーエーネットワーク）

『文化中級日本語』Ⅰ（文化外国語専門学校）、『J.Bridge』（凡人社）

『Basic Kanji Book』Vol.2（凡人社）

『毎日の発音練習』（独自開発テキスト）

4.3 日本事情

学内から国際交流学生ボランティアとして募集した日本人学生との交流・活動を通して、日本社会について学び、さらには習得した日本語を実際に使う機会を提供する。

また、留学生と日本人学生が共に自国の言語や文化に対する関心を高め、異文化を理解し、異文化コミュニケーション能力を養うことを目指す。

4.4 コンピュータ

この授業では、留学生が日本語環境でコンピュータの基本的な操作をすることができ、ひらがなやカタカナ、さらに漢字なども使って、正しい日本語の入力ができるようになることを目指す。また、あわせて、大学での勉学に必要な基本的な情報リテラシーの習得も目指している。

留学生には、日本語のコンピュータ用語が漢字語やカタカナ語が多いために難解であること、促音や拗音などの特殊音の入力が難しいなど、特有の問題があるが、それを克服できるように指導することが大きな目的である。また、専門課程での勉学に備えて、ワープロソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどを使えるようになることも目指し、同時に日本語での電子メールの書き方、インターネットの使い方、およびそれに付随する著作権やセキュリティ対策などについても指導を行った。

〔使用テキスト〕『日本語学習者のためのアカデミックインフォメーションリテラシー』

（独自開発テキスト）

4.5 口頭発表プロジェクト

4.5.1 口頭発表プロジェクト

日本語研修コースに在籍する留学生は、その多くが大学院へ進学する予定の学生であり、コースが始まって半年後にはそれぞれの専門課程に進んで専門の勉強や研究を始めなければならない。本コースでは、留学生がそのような活動を効率的に進められるように、スピーチ発表会で自分の専門の内容について簡単に説明する口頭発表を行い、さらにレポートにまとめるというプロジェクトを学生に課している。この活動は、一般日本語、コンピュータ、そして専門の学習が一体となって行われるものである。

具体的には、留学生は自分の専門について、専門用語を調べたり、必要な情報をインターネットなどから得たり、あるいは必要に応じて所属研究室の指導教員や学生に質問したりした上で、プレゼンテーション用ソフトを用いて、プレゼンテーションを行う。コース修了時にスピーチ発表会を開催し、発表を行った。

さらに、学生は発表原稿をもとにしてレポートを作成し、研修コース修了レポート集『らいちょう』として発行した。

4.5.2 スピーチ発表会

スピーチ発表会は、第16期は2007年9月7日（金）に、第17期は2008年2月19日（火）に、それぞれ午後1時半より開催した。第16期は21名、第17期は31名の出席者があった。出席者は学生の指導教員やセンターに関係のある教員、学務部学生支援課留学支援室職員、ホストファミリー、日本語研修コースの修了生、富山大学の留学生および日本人学生などである。

留学生は、発表会に向けて、指導教員、同じ研究室の先輩留学生、日本人学生に協力してもらいながら熱心に準備を進めた。授業時間以外にも発表の原稿をチェックしたり、教員が原稿を朗読しテープに吹き込んだものを作成して学生に渡すなどして、指導にあたった。

発表会当日の出席者からは、学生の発表技術や内容を評価するコメントのほか、もっと多くの人に発表を聞いてもらいたいなど、発表会のPRを積極的に行ってはどうかというコメントがあった。

4.5.3 修了レポート集作成

スピーチ発表会で口頭発表を行った原稿をもとにしてレポートを作成し、修了レポート集『らいちょう』として発行した。留学生は各自の専門についてのレポートを作成した他、共通の項目として、表紙、目次、住所録、写真のページなどについて共同で作成した。学生たちはそれぞれの能力を発揮し、話し合いを進めながら、コンピュータの授業で学んださまざまな文書の作り方などを極めて能率良く活かし、完成度の高い文集を作り上げた。

なお、前年度まではそれぞれの期の報告書（本稿の内容に相当）と留学生のレポートを合わせた形で、期ごとに『らいちょう』を発行していたが、2007年度開講のコースから留学生のレポートのみを集めて、1年に1回、4月開講のコースと10月開講のコースを合わせた形で発行することとなった。

5 成績評価

初級クラスでは、メインテキスト（『みんなの日本語』）に基づく定期試験と文字・漢字の試験を実施し、中級クラスでは、メインテキスト（『みんなの日本語』Ⅱ、『J.Bridge』、『文化中級日本語』Ⅰ）に基づく定期試験と漢字および外来語の試験を実施した。また、口頭発表プロジェクトについても、原稿と発表会当日の発表を教員が採点し、プロジェクトの成績を出した。コース修了時に、定期試験の成績、文字・漢字等の試験の成績、口頭発表プロジェクトの成績を総合したものをコースの成績として出し、コースへの出席率も含めた成績表を作成して、受講者本人と指導教員へ通知した。

6 コース評価

日本語研修コースでは、コース改善に役立てるために、コース終了時にコースエバリュエーションのアンケートを行っている。実施前に、成績等には全く影響しないことを伝えた上で、授業の内容、テキスト、教師の教え方、コンピュータ授業、口頭発表プロジェクト、日本人学生との時間、ホームステイ・ホームビジットなどについて、調査を行った。それぞれの期のコース評価の結果を表4、表5に示す。

表4 第16期コース評価

質問及び回答結果	自由意見
<p>(コース全体) コースは役に立ったか スケジュールはどうだったか： 忙しい3人，ちょうどいい1人 日本語は上達したか： した2人，普通2人</p>	
<p>(日本語の授業) 授業はどうだったか 教科書はどうだったか ハンドアウトはどうだったか 教師の教え方はどうだったか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の教え方はとてもよかった。 ・日本語の授業で勉強したことは面白かったと思う。
<p>(テスト) テストはどうだったか テストは多かったか： ちょうどよい4人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字のテストはたくさんあったが，とてもよかった。 ・日本語の勉強にとっても役に立った。
<p>(コンピュータ授業) 日本へ来る前に コンピュータを使ったことがあるか： ある4人 メールやインターネットを使ったことがあるか： 両方4人 どんなソフトウェアを使っていたか Word 4人，Excel 4人，PowerPoint 2人 日本語環境で使ったことがあるか ある1人，ない3人 授業は役に立ったか テキストはどうだったか 教え方はどうだったか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で日本語環境のコンピュータを買ったが，今よくできる。 ・コンピュータの授業はよかった。
<p>(口頭発表プロジェクト) プロジェクトはたいへんだったか： たいへん2人，ふつう2人， プロジェクトは役に立ったか 発表会は役に立ったか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいことばを勉強した。

<p>(見学)</p> <p>見学は楽しかったか： はい 4人</p> <p>見学場所は適当だったか： はい 4人</p> <p>見学の時期は適当だったか： はい 4人</p>	<p>どんなところが楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> • きれいなところだった。売薬資料館が楽しかった。 • たくさんめずらしい部屋を見ることができた。
<p>(ホームステイ/ホームビジット)</p> <p>[参加した3人のみ回答]</p> <p>ホームビジットは楽しかったか： はい 3人</p> <p>ホームビジットの時期は適当だったか： はい 3人</p>	<p>どんなところが楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> • 温泉へ行った。 • 子どもたちがかわいかった。料理がおいしかった。
<p>(日本事情)</p> <p>日本人学生と一緒に勉強するのはどうだったか：</p>	<ul style="list-style-type: none"> • とてもむずかしい。日本人はむずかしいことばをよく使うので。 • 面白かったが、日本人の学生の数がちょっと少ないと思う。 • 一緒に日本語を勉強して楽しかった。

- 回答方法は、5段階による評定と選択肢から該当する内容を選択するものがあるが、回答結果については後者の結果のみを掲載している。
- 自由意見は日本語または英語で記入させた。英語から日本語への翻訳、日本語の訂正はコーディネーターが行った。

表5 第17期コース評価

質問及び回答結果	自由意見
<p>(コース全体)</p> <p>コースは役に立ったか スケジュールはどうだったか： 忙しい 4人, ちょうどいい 2人</p> <p>日本語は上達したか： した 3人, 普通 2人, しなかった 1人</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 忙しい。 • 日本に来る前に日本語が全然話せなかったが、今日本語が話せるようになった。
<p>(日本語の授業)</p> <p>授業はどうだったか 教科書はどうだったか ハンドアウトはどうだったか 教師の教え方はどうだったか</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 日本語の授業は大切だった。 • 日本語の授業で勉強したことは面白かったと思う。 • たくさんの役に立たないハンドアウトをもらった。
<p>(テスト)</p> <p>テストはどうだったか テストは多かったか： 多い 3人, ちょうどよい 4人</p>	<ul style="list-style-type: none"> • テストは多かったが、大切だった。 • 日本語の勉強にとっても役に立った。 • テストの問題はあいまいだった。メインテキストのテストは全然良くなかった。

<p>(コンピュータ授業)</p> <p>日本へ来る前に コンピュータを使ったことがあるか： ある 6人</p> <p>メールやインターネットを使ったことがあるか： 両方 6人</p> <p>どんなソフトウェアを使っていたか Word 6人, Excel 6人, PowerPoint 6人, Publisher 1人, その他いろいろ 1人</p> <p>日本語環境で使ったことがあるか ある 3人, ない 3人</p> <p>授業は役に立ったか テキストはどうだったか 教え方はどうだったか</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 日本に来る前にコンピュータを使ったことがあるが、日本語では使ったことがなかった。
<p>(口頭発表プロジェクト)</p> <p>プロジェクトはたいへんだったか： たいへん 1人, ふつう 5人</p> <p>プロジェクトは役に立ったか 発表会は役に立ったか</p>	<ul style="list-style-type: none"> • もっと練習があった方がいい。
<p>(見学) [参加した5人のみ回答]</p> <p>見学は楽しかったか： はい 5人</p> <p>見学場所は適当だったか： はい 5人</p> <p>見学の時期は適当だったか： はい 5人</p>	<p>どんなところが楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> • 全部 (3人) • 合掌造りの家 • 売薬資料館
<p>(ホームステイ/ホームビジット)</p> <p>ホームビジットは楽しかったか： はい 6人</p> <p>ホームビジットの時期は適当だったか： はい 6人</p>	<p>どんなところが楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本のお茶 • 着物を着た。 • 日本の文化がよく理解できた。 • 富山県補聴器センターを見学した。 • 食べ物がおいしかったし、文化は面白かった。

<p>(日本事情) 日本人学生と一緒に勉強するのはどうだったか：</p>	<ul style="list-style-type: none"> • とてもいい。 • 日本人学生が少し少ないと思う。 • とても楽しかった。でも時間がもっと多い方がいいと思う。 • 日本の学生はとても親切だと思う。日本の文化のクラスはとても楽しかった。ありがとうございました。
--	---

- 回答方法は、5段階による評定と選択肢から該当する内容を選択するものがあるが、回答結果については後者の結果のみを掲載している。
- 自由意見は日本語または英語で記入させた。英語から日本語への翻訳、日本語の訂正はコーディネーターが行った。

コースについての評価は、このコースが1日4コマ、75日の集中コースということもあり、受講者の中には同時に研究活動を進めながら受講している留学生がいるため、どうしてもスケジュールが忙しいととらえられてしまう傾向がある。とはいえ、第16、17期ともに、コースは役に立ったかという問いに対して、5段階評価でも平均4.7以上の回答が得られていることから、受講者のコースへの満足度は高かったと言ってよいだろう。自己の日本語の上達度についての問いには、17期の学生で「上達しなかった」と答えた学生がいるが、この学生は、クラスでの様子や定期試験での成績などから見ても十分に上達のあとがうかがえる学生であった。おそらく、自己の能力について謙虚に判断して回答したか、あるいは目標を高く設定して自分はそのまで到達できなかったという評価をもとに回答した結果だと思われるが、こうした学生に対しても十分な達成感を持たせることができるような工夫が必要と言えるだろう。

日本語の授業やテストについての問いでは、テストが多くて大変だったという回答も見られるが、その多くは自己の日本語学習に役に立つものとして、プラスにとらえられているようだ。また、授業で配布されるハンドアウトについて、「役に立たないハンドアウトをたくさんもらった」という自由記述が見られる。これは主に練習で使うタスクシートのことを指していると思われるが、クラス内での活動において、場合によってはその目的や意図をはっきりと示し、受講者にそれを理解させる必要があると言えるだろう。

コンピュータの授業や口頭発表プロジェクトについても、概ね高い評価を得ている。最近では、来日前に既に母語環境あるいは英語環境のコンピュータを使いこなしている留学生が多くなっているが、それでもコンピュータの授業への評価は高く、それだけ日本語環境でのコンピュータの使用が留学生にとって困難を伴うものと言えるだろう。口頭発表プロジェクトは、それぞれの専門について日本語で説明するというプロジェクトであるが、短期間で準備をしなければならないため、それが大変だととらえられているようである。しかし、プロジェクトが役に立ったかという問いについても、第16、17期ともに5段階評価で平均4.3以上の回答が得られていることから、その大変さは肯定的にとらえられていると言える。

見学、ホームステイ・ホームビジット、日本事情についても高い評価が得られた。特に、教室以外の場で習った日本語を使ってコミュニケーションをしたり、日本の文化について学ぶ機会があったことについて、よかったと感じているようである。日本事情については、どちらの期でも、日本人学生の数が少ないという意見が見られる。日本人学生はこの授業には国際交流学生ボランティアという形で参加しているが、彼らにとっては単位の出ない授業であることなどもあって、異文化理解や留学生との交流に関心を持つ学生を多数確保するのは難しい状況がある。しかし、留学生にとっては、身につけた日本語

でコミュニケーションをする場であったり、それぞれの文化について相互に理解し合ういい場であるにとらえられているので、こうした活動に関心を持つ日本人学生をいかにして確保していくかということも課題の一つであると言えよう。

7 おわりに

富山大学留学生センターは設置から8年が経過した。大学院入学前予備教育・日本語研修コースも、2008年3月には第17期生を送り出し、これまでに文部科学省からの配置学生、学内措置による受講者を合わせて116人が修了している。

日本語研修コースと日本語課外補講の一部の授業の合同開講開始から2年が経過し、合同クラスと単独クラスで、それぞれの利点を生かした指導が行えるようになってきた。2008年度にはさらに合同クラスの数が増えることになり、それぞれのクラスの利点を生かしつつ、個々の学生の力をどのように伸ばしていくかが今後の課題になると言えるだろう。

日本語研修コースは、これまで17期にわたってコースを開講してきたが、この間にコースの状況も少しずつ変化してきている。こうした中で、学内のより多くのニーズに応えられるように、2008年度には学内のニーズ調査を実施する計画である。このニーズ調査の結果をもとにしながら、より質の高いコースを提供していけるよう、コースの内容を考えていきたい。また、状況の変化にともなって、これまでの受講者にはなかった問題が生じてくる可能性もある。そうした問題にも瞬時に対応できるように、センター教員、コース担当非常勤講師をはじめ、受講者の指導教員や事務系職員とも連携を密にして指導にあたっていきたい。